

マイペンライ 通信

編集・発行 アジア保育教育交流推進実行委員会
(略称：大阪マイペンライ)

http://cwoweb2.bai.ne.jp/osaka_maipenrai/index.html

2013年11月20日

No. 91

TEL 072-645-7772
(森代表事務所)

FAX 06-6581-8536
(部落解放同盟大阪府連)

事務局 090-3948-8372 (稲葉)
Jge17901@cw2.bai.ne.jp

「理念が受け継がれること祈念して・・・」

総会で活動の終了、大阪マイペンライの解散を決定

第21回総会を10月30日、PLP会館で開催

大阪マイペンライは10月30日、PLP会館で第21回総会を開催しました。この総会は、会の活動の終了、会の解散を決める第1号議案「結成20周年を迎えての総括と方向」を提案して、会員の皆様のご意見をいただく重要な総会でありました。総会には個人会員、団体会員のみなさん約70名のご出席をいただきました。また、お忙しい中、来賓の皆様のご出席をいただきました。

シャンティ国際ボランティア会 (SVA) 常務理事 市川 斉 様
国際事業課課長 中原亜紀 様
元 SVAスタッフ 小林寛明 様・奈津子 様

育教育交流推進実行委員会



総会は曾野部副代表の司会で始まり、議長に吉田副代表を選出しました。



総会の冒頭、森みどり代表より、設立当時の理念や20年間の活動に触れながら「今回、様々な事情によりこの20年の活動を一旦ここで終了しますが、ただ活動の中身についてはそれぞれ違った形で受け継いでいただくという、そういう芽を作ってきたことも事実です。今後ともこの理念が受け継がれ、広げられることを私も心から祈念しお願いします。かかわっていただいた多くみなさんに感謝を申し上げます。」などとあいさつしました。(あいさつ

全文は別記)

続いて、当会の活動に多大なご協力をいただいているシャンティ国際ボランティア会の市川様よりご挨拶をいただきました。また当会の活動に大変ゆかりのある中原様、小林様からもご挨拶をいただきました。(あいさつの要旨は別記)

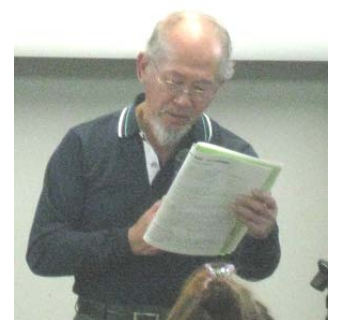
議事では、稲葉事務局長より、「2012年度経過報告」「第1号議案 総括と方向」、松尾事務局次長・会計より「第2号議案 2012年度及び総会までの決算と最終予算」を提案し、田村会計監査より「監査報告」を報告しました。この20年間の活動の経過を補足説明するためにプロジェクターで「通信と写真で見る20年」を上映しました。



「世延天1」安野



続いて提案・報告に基づいて質疑が行われました。質疑では3人の方より「スタディツアーでホームステイを経験した。大阪マイペンライの20年の歩みはすごいと感じる。脈々と受け継がれてきた活動がこれからも続けられるだろうと思う。」「国際交流であって支援だけではないのだということ学んだ。現地から帰って、自分の職場で仕事をするときも地域連携や子どもを大切にすること、自分を大切にすることなどを気付かされた。これからはがんばる。」「スタディツアーで実際に現地に行ったが、観光ではできない人と人とのつながりとして、



ホームステイをさせていただいて非常に貴重な経験ができた。支部としても絵本活動を今後も続けたいと考えている。」などの意見、感想をいただきました。（3人の方からの意見・感想は別記のとおりです。）

質疑の後、採択が行われ、吉田議長の「本当に意義の大きな20年のあゆみを共有して、そこで育んできた成果を別のところで引き継ぎながら、今後に向けて出発するということで集約したいと思います。」との発言の後、提案内容について異議ないものとして採択され、「大阪マイペンライの2012年度での活動終了、会の解散」が決定しました。また、引き継ぐべき課題の整理、資料の作成などについても承認をいただきました。

会員の皆様、現地NGOの皆様に心より感謝します。

これまで、長い間にわたりましてご支援ご協力いただきました個人会員、団体会員の皆様、様々なご支援をいただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。さらに、当会の活動に多大なご協力をいただきました現地のNGOの皆様、スタッフの皆様に対して心より感謝申し上げます。

〈総会でいただいた意見、感想の要旨〉

根来さん：94年に大阪に来たタイのスタッフの話聞いた。1バーツを握って勉強をしに来る子どもがいるという話に、ぜひ現地に行って、子どもの状況を知りたいとスタディツアーに行った。3回、モン族の村の保育園訪問、ホームステイなどを経験した。

現地で老女が水を汲みに行くというのでついていったが、すごく長い距離を歩いて水を汲みに行かねばならない。その水も飲み水として使い、洗い物に使い最後に庭にまくという風に、私たちの使い方と違って大切に使われているのを見て水のありがたさを感じた。私が捨てたビニールや白い紙も子どもたちがゴミから拾って字を書くのに大切に使っていた。

ホームステイでは、3回目に行ったときには、山から塩ビ管か何かで水を引き、家庭に水道ができるようになっていた。蛍光灯はあるが夜8時には全部消えて、漆黒の闇を経験もした。家の人は土間で寝ていたが、私たちはお客様ということで竹で編んだベッドで寝かせてもらった。

山岳地帯では、焼き畑農業から平地に移住させられたことの問題も垣間見た。

今、写真で見せてもらったが、大阪マイペンライの20年の歩みはすごかったんだと感じた。タイのいろんな方にお世話になった思い出がある。また、私たちの仲間である松尾さんらによって脈々と続けられてきた活動が、これからも続けられるだろうと思う。私は経験させてもらっただけであったが、今も活動を続けられている人がいることをうれしく思っている。

竹野さん：アジア保育教育交流推進実行委員会となっているように、交流を通じ先輩から保育観や、仕事の仕方、チームの大切さを教えられてきた。また、国際交流であって、支援だけではないのだということを大阪マイペンライの活動を担当することで学んだし、大事なことだと思った。

自分の身を現地において気づくことがいっぱいあるが、帰ってきて自分の職場で仕事をするときにも、地域連携であったり、子どもを大切にすることであったり、私が私を大事にすることであったり、チームのことを大事にすることであったりといったことを気付かされる。活動通じてそのことを学び、今もこれからも大事にしていこうと思っています。これからもがんばります。ありがとうございました。



中野さん：昨年、スタディツアーに参加して、初めて大阪マイペンライの活動に参加した。人と人の顔が見える交流ということで実際に現地に行ったが、現地と日本人とのつながり方の違いを感じた。観光で行っただけでは人と人とのつながりには発展しないのかなと思う。スタディツアーでホームステイをさせていただいたからこういったつながりができる。非常に貴重な経験をさせていただいた。

支部としても、今後、絵本作りを続けることとしているが、マイペンライの活動を通じて得たことを発展的な取り組みとして行っていけるように、支部の中で協議しながら進めていきたい。大阪マイペンライの方々につきましては長い間本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。



20年間のご協力に感謝

顔と顔の見える交流が受け継がれることを祈念したい

最後の総会となります。多くの皆様に参加いただきありがとうございます。大阪マイペンライは1993年4月に設立をいたしました。当時、国際識字年を機に大阪からアジアとの交流、厳しい状況にあるアジアの子どもたちの支援という思いを一つにして、部落解放同盟大阪府連、大阪府教組、自治労大阪府本部の3つの団体が力を合わせて国際交流の一翼を担って行こうということで大阪マイペンライを立ち上げてきました。

そういう思いで20年間続けてこられましたのも、皆様に節目、節目で受け入れなどの協力をいただいたことと、同時に、現地のパートナーとしてシャンティ国際ボランティア会、ドゥアン・プラティープ財団、シーカー・アジア財団の皆さんにご協力や橋渡しをしていただいたことによって、20年の長きにわたり所期の目標を達するべく毎年、毎年取り組みをしていくことができました。本当に皆様ありがとうございました。

さて、大阪マイペンライは国際交流という大きな旗を掲げておりますが、顔と顔の見える双方向の交流をしっかりとやろうということが一番の基盤となりました。単に支援をする側、される側という関係を作ってしまうのではなく、互いに顔と顔をしっかりと合わせそれぞれの活動、日本での活動に活かしていく、現地のみなさんも様々な活動を自発的な活動を強化していただくということで、本当の

双方の相互交流の活動をしっかりとやろうということが基本的な理念としてありました。

それを具体的に表していくための奨学金としてのサワディ基金や、日本の絵本に翻訳シールを貼り付けて、それを直接自分たちが現地に行って子どもたちに届ける。そして、そこでの活動を私たちの目でしっかりと見せていただいて、それを持ち帰って教育や保育あるいは地域の現場での活動に活かしていくという、そういう活動を重ねてまいりました。この20年の活動、メンバーは変わりましたが、そういう活動を続けてまいりました。

今回、様々な事情によりましてこの20年の活動を一旦ここで終了しますが、ただ活動の中身についてはそれぞれ違った形で受け継いでいただくという、そういう芽を作ってきたことも事実です。今後ともこの理念が受け継がれ、広げられることを私も心から祈念し申し上げます。かかわっていただいた多くの方々に感謝を申し上げ、今後ともまた違った形で出会うことを祈念いたしまして、冒頭のごあいさつといたします。本当に皆様ありがとうございました。



《総会でいただいたご来賓のごあいさつ（要旨）》

シャンティ国際ボランティア会 常務理事 市川齊雄

今日が節目ということで参加させていただきました。マイペンライの歩みを見させていただきましたが、私自身1990年に入職しましたが、その年が国際識字年で、それから20年、マイペンライとして活動されており、歴史の長さを感じるところです。私はタイ、ラオス、カンボジアの現地で活動していなかったのですが、現場でマイペンライさんの活動と一緒にすることはなかったのですが、95年の阪神淡路大震災で2年間、神戸の現地に行っておりまして、マイペンライの松尾さんがボランティアとともに来られて神戸の長田区で一緒に活動していただき心強く思ったことが今でも覚えております。

また、私たちのタイ、途中からカンボジア、ラオスのスタッフが相互交流という形でお世話になって、今でも私たちの活動の中核になって活動しています。SVAは、最初はタイだけの事務所でしたが、カンボジア、ラオスと拡大し、来年はミャンマー本国に事業を拡大する予定です。マイペンライさんに応援いただいたスタッフが育って、私たちの現場を支えて広まっていただいていることを感謝しております。

皆様いろいろとご苦勞があったと思いますが、これまでいただいたご縁を大事にしながら、これからもますます活動を続けていきますので、これからも見守っていただければと思います。簡単ではありますが私のごあいさつとさせていただきます。

市川 齊雄



シャンティ国際ボランティア会 海外事業課課長 中原亜紀様



私は大阪マイペンライさんとのお付き合いは長くて、タイのSVAの事務所にて98年から働いておりますけどそのところからのお付き合いです。タイに長くおりましたので大阪マイペンライさんの様々な活動に現地の方で一緒にさせていただきました。

私自身、たくさんの思い出と学びがあるのですが、やはり顔と顔が見える交流をととても大事にされてきた団体と記憶しています。私もそういう場面と一緒にさせていただいて、皆様のお気持ち、交流をどれだけ大事にされているか間近に見させていただいて、私自身も現場の方で頑張っていました。

国際交流のNGOの中でもなかなか機会が少なくなっている、人と人がしっかりと向き合っ一緒に考えて一緒に活動していくというNGOの原点かなと学ばせていただきました。そういった大事な心を現地の活動に

活かしていきたいと思えます。非常に残念ではありますが、皆様とこれからも長くお付き合いできたらなと思えます。また、様々なところでご指導ご鞭撻いただければなと思えます。本当に20年間お疲れ様でした。そして、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

元SVAスタッフ 小林寛明様・奈津子様

私はSVAに入職して、東京事務所で勤めて、そのあとタイのバンコクで2004年から2008年まで務めていました。いつもマイペンライ通信を送っていただいているのですが、総会が開かれるということで、ぜひ参加したいと思い東京から参加しました。私はタイで活動していましたので、タイの方から招聘研修でお邪魔したり、あるいはスタディツアーで受け入れられたりとかしてきました。2004年にタイに赴任した時にタイのスタッフから「どこ出身？」と聞かれ、普通、「東京？」と言われるのに、「大阪？」と聞かれました。それほど、大阪を身近に感じておられました。



シーカー・アジア財団のスタッフは日本に研修に来られる機会はほとんどありません。大阪マイペンライさんの招聘研修や労働組合の研修がメインとなっています。実際に大阪に来た時に、自治労大阪府本部、大阪教組、部落解放同盟のそれぞれの現場にお邪魔するのですが、普通、突然一人で来ても保育所や解放同盟の地域や市役所など入れてもらえないところ。私も通訳としてお邪魔しながらも本当に勉強させていただいて、御縁をいただいてそれをタイに持ち帰って、タイのスタッフと現場で活かしていくことをしてきました。

タイのスタッフはここで得たものをタイの現場で活かしたり、あるいはやめられて新しく事務所を立てられたりとか、あるいは少数民族の支援をしたいということで活動しています。私自身もSVAを辞して仕事の傍ら小さなNPOをやっているのですが、国際交流として高校生をタイに連れて行ったりとか、少数民族に奨学金を出したりとか大阪マイペンライさんと同じようなことをやっていますが、現地のスタッフを引き受ける招聘研修はできません。

皆様のネットワークはタイの人たちに根付いているものです。子どもツアーですが、参加した高校生の子が大学に進学して国際協力について学んでいるとか、保育士さんがタイに来て研修し、それらを自分たちの活動に活かすということも続いています。皆様がまいていただいた種が少しずつ育っていると思えます。これから皆様と関係が続けていきたいと思っているスタッフはたくさんいると思えます。私もできる範囲で



しか活動できないですが、それでも顔の見える関係、双方向の活動は日本の中でもできるんじゃないかなと思えます。そういう気持ちを持っている人はタイの中には大勢いるのではないかなということをお伝えしたかった。

《総会に寄せられたメッセージ》

大阪マイペンライの皆様

「相手の視点に立って考えること」

この、人権を大切にするための最も基本的なことを、国を越えて、体現してこられたのが大阪マイペンライさんだっと思えます。

これまでの交流・研修を通して、私たちが深く学び、強く成長できたのは、環境や立場の差はあれ、地域のため、子どものため、ともに活動する仲間であるというメッセージに支えられてきたからです。これからも皆さんの仲間の一員として、タイで活動して参ります。20年間、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

タイの教育支援NGO「マレットファン（夢の種）」ムアイ、ギップ、松尾久美